

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第720号（令和六年二月号）表紙

- ・春の季語：「梅」（初春・植物）
- ・来月号（三月号）の兼題です。



<梅>梅は桜とならんで、代表的な春の花で、百花にさきがけて咲く花の兄、春告草です。梅はその香気と花の姿でもっとも重んぜられた花で、桜よりもその尊重の歴史が古く、中国でも尊重されるが、桜と比べて、風雅の好みが一段と濃いものと思われます。

古典俳句にもたくさんのお名句があります。

（子季語）花の兄、春告草、匂草、風待草、野梅、白梅、臥竜梅、青竜梅、残雪梅、他

季語「梅」を詠った有名俳人の句に以下のようなものがあります。

- ・梅が香にのっと日の出る山路かな／芭蕉
- ・むめ一輪一りんほどのあたたかさ／嵐雪
- ・二もとの梅に遅速を愛すかな／蕪村
- ・山川のとどろく梅を手折るかな／飯田蛇笏
- ・梅一枝つらぬく闇に雨はげし／水原秋櫻子
- ・梅一輪踏まれて大地の紋章たり／中村草田男
- ・梅白しまことに白く新しく／星野立子

☆前月の清記表に記載の中から選ばれた高得点句（5点以上）

- ・前月の清記表に記載された13名の91句のなかから互選で高得点を獲得した句です。
 - ・大根干す忍者屋敷の軒深し／恵吾 8点
 - ・寄席文字の酒房提灯小夜時雨／緑汀 7点
 - ・綿虫や利休屋敷の錆釣瓶／緑汀 7点
 - ・切り揃ふ手足の爪や冬日和／要 6点
 - ・懐手嫌なニュースは聞き流し／恵吾 5点

*以下は4点句（惜しい！もう少しで5点）です。

- ・街角にキッチンカーの夜鳴きそば／甲舟
- ・河豚競りや袋の中の小競り合ひ／穂心
- ・ガスボンベ四つ列ねて冬館／史浩
- ・故郷の思ひで話蜜柑むく／温州
- ・老楽の気分ほのぼの冬至の湯／恵吾

☆その他のトピックス

①「散歩道の自然～写真解説」：安本緑汀

緑汀さんは今月号では従来 of 植物ではなくキノコを撮影され解説頂いています。



散歩道の自然

安本緑汀

- ・オニフクベ（鬼瘤）、別名 藪玉（右上）
- ・マンネンダケ（万年茸）、別名 霊芝（レイシ）（左上）
- ・ヌメリダケ科のキノコ（右下、中下） ・ホウライタケ（左下）

- ②「緑汀さんの『散歩道の自然』」：後藤碧玄
 緑汀さんが「散歩道の自然」で取り上げた植物を、別の視点でとらえた随想文を掲載。今月は秋の七草。萩・芒・桔梗・撫子・女郎花・葛・藤袴です。
- ③「新年会を開催しました（一月十四日）」：平林温州
 大阪支部と共同開催した新年会の模様を紹介しています。参加者は62名。マンドリンクラブ、将棋部の現役学生さんのプレゼン。シンガーソングライター・宝子さんの弾き語り、和太鼓集団「ホッと太鼓」の獅子舞、和太鼓演奏等の催し物で大いに賑わった様子を紹介しました。
- ④「能登半島地震に思う」：穂永穂心
 新年早々に能登半島地震が発生しました。二十九年前の阪神淡路大震災、十三年前の東北大震災に重ね合わせ様々な思いがよぎったようです。また、現地にはお知会がおられるようですが、本人と直接連絡が取れないので役所に消息を訪ねる予定とのことです。この随想文の最後は、和歌山出身の歌手・坂本冬美の歌「能登はいらんかね」で締められています。
- ⑤以下の方々より新年のご挨拶、近況報告他がありました。
 ・河本要様 ・安本緑汀様 ・安田善富様 ・北草炎様 ・山下勝様 ・後藤碧玄様

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の18名
- ・昭和38年（1963年）結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）
 メールアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先；
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）
 メールアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）
 メールアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上

（文責：平林 温州）